

生涯学べ

23 玉川の丘は生涯にわたる学習の場。通信教育部での学びが今に生かされています。

学校と家庭と地域で子どもを育てる



宮島 徹
Toru Miyajima
東京都町田市立町田第一小学校校長

東京都出身。1979年通信教育部で小学校2種教員免許状取得。2008年から校長職

員の2種免許状を取得でき、東京都の教員採用試験にも合格しました。

幸いにも教育実習に行った三鷹市立の小学校に配属され、翌年には実習で教えた子どもたちを担任。卒業までの3年間は忘れがたい思い出です。体育の研究授業に力を入れ、サッカーの指導にも取り組みました。子どもと関わるほどに教育への関心が広がり、10年目に挑戦したのは海外の日本人学校への赴任でした。

世田谷の小学校で教えていた子どもがアラビア半島のバーレーンへ転居し、現地で学ぶ様子を手紙で知らせてくれたのがきっかけです。文部科学省から派遣されて在外教育施設で3年間教える制度があり、採用試験を受けたところドイツへ赴任が決まりました。

91年からデュッセルドルフ日本人学校へ。授業は日本語の教科書を使うけれど、理科の観察ではドイツにメダカがないのでオランダまで買いに行ったり、アサガオやヒマワリが手に入らず、代わりの植物を探すなどの工夫をします。社会科ではドイツの先進的な環境保護について調べ、独自の教材を作りました。

海外にいると逆に日本の良さに気づくことも多く、毎朝の国旗掲揚に感慨を覚え、唱歌の美しさも感じます。一



1979

78年に通大に入学。城西支部のメンバーと模擬授業の練習をしたり、夜の公園で蚊取り線香をたきながら勉強したことも懐かしい

大

学は理系で機械工学を専攻しましたが、将来を考えたとき、どうしても教員の道へ進みたいと思っただのです。家庭教師をするうち、子どもに教えることに情熱が湧いてきた。通信教育なら、会社勤めをしながら小学校の教職課程を取れるとわかり、卒業後に玉川の通大へ入学しました。スクーリングで出会った仲間とは毎月学習会も開き、教員になりたての先輩に採用試験の勉強法を習ったり、模擬面接を受けたり。2年間で小学校教

“ 子どもたちには命の尊さを知り、人との関わりを大切に
する人になってほしい ”

方、ドイツは外国人を寛容に受け入れ、教育や雇用など生きる権利を保障する姿勢が素晴らしい。帰国後は日本の子どもたちにも、世界には多様な価値観があり、こうあるべきと捉われないことの大切さを伝えてきました。さらに貴重な体験となったのは、2003年に副校長として三宅島の小学校へ配属されたことです。2000年の噴火被害で三宅島の住民は東京都内へ避難し、4年半も帰島できなかった。子どもたちもバラバラに転校していたので、私たち教員は毎月集会を開いて、心の絆を強めることに努めま

した。その間、島へ通い、火山灰をかぶった校舎で教材などの備品整理や児童の受け入れ準備を進め、05年4月に3校合同体制で三宅村立三宅小学校が再開したのです。

子どもたちを見ると、お年寄りも元気が湧いてくる。だから、子どもたちをもっと元気にして、学校から元気を発信しようというのが校長のモットーでした。避難先では思いきり外遊びもできなかったため、帰島した子どもも大人も励みとなるよう、もとの島の3つの小学校合同で「FC三宅」というサッカークラブを作りました。

海外の学校や三宅島での経験は教員としての視野を広げてくれました。その後、管理職試験を受けて校長になったのは、若い教員を育て、新たな世界を知るチャンスを与える後押しができればと思ったからです。

さらに、三宅島の人たちは自分の住む町を愛する気持ちで繋がっていて、それが支え合う力になることを教えられた。地域の拠点となるのは学校だと思ひ、校長として赴任した町田市の小学校では地域と連携した行事を手がけました。今のテーマは、学校と家庭と地域が一緒になって子どもたちに学びの場を提供すること。そこで心の絆も育まれるように力を尽くしたいのです。

在外教育施設への教員派遣制度

在外教育施設とは、海外に在留する日本人の子どものために設置されたもので、日本人学校、補習授業校などがある。日本人学校は国内の小学校、中学校、高等学校における教育と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設。世界51カ国・地域に88校が設置されている(2011年4月時点)。

教員派遣の仕組みとしては、文部科学省が国内の義務教育諸学校の中から、各都道府県教育委員会等が推薦する教員(派遣教員の資格を満たした者)について選考を行い、適任者を決定。研修を行ったうえで、原則として2年間の期間で毎年度当初に各在外教育施設に派遣される。



91年から3年間、ドイツのデュッセルドルフ日本人学校へ派遣された宮島先生。現地の文化や歴史、地理などに関わる学習や現地校との交流も行った



2011

08年に校長として町田第五小学校へ赴任。道徳の授業では命の大切さや家族の絆を考える授業を行った。地域との連携行事として、夏休みに体育館に泊まって災害時の避難所体験をした。玉川大学から教員のインターンシップや教育実習も受け入れていた

2005

三宅島の噴火後、3校合同体制で小学校を再開。火山ガスの放出は続いていたが、できるだけ外で遊べる機会をつくり、灯台へ出かけた



1986

2校目に赴任した世田谷小学校で子どもたちに頼まれてサッカー部を指導。約100人の部員と朝練や放課後、週末も一緒に過ごした

